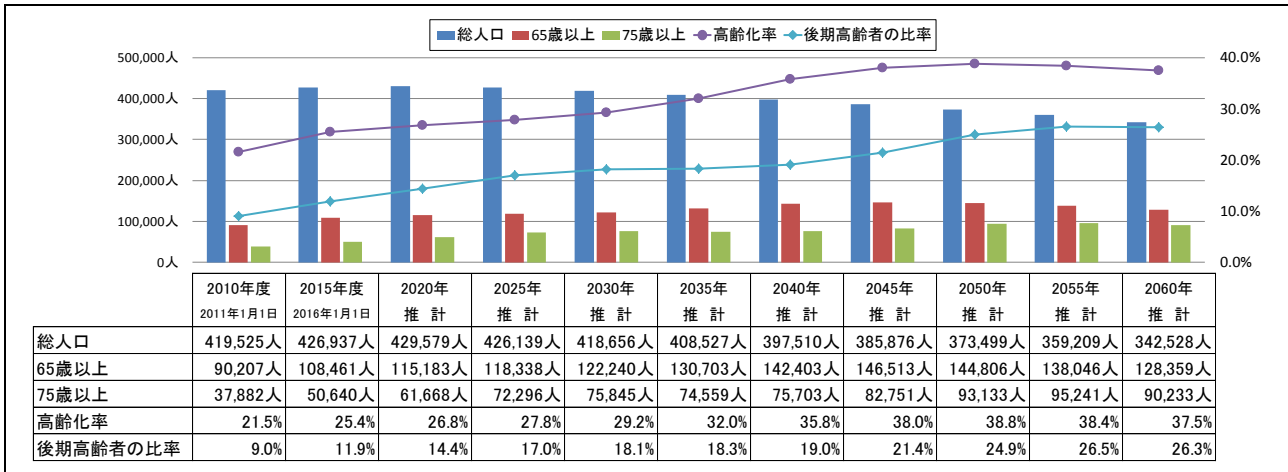


2017 年度第 1 回町田市高齢社会総合計画審議会資料

町田市内の高齢化の状況

1. 高齢化の推移

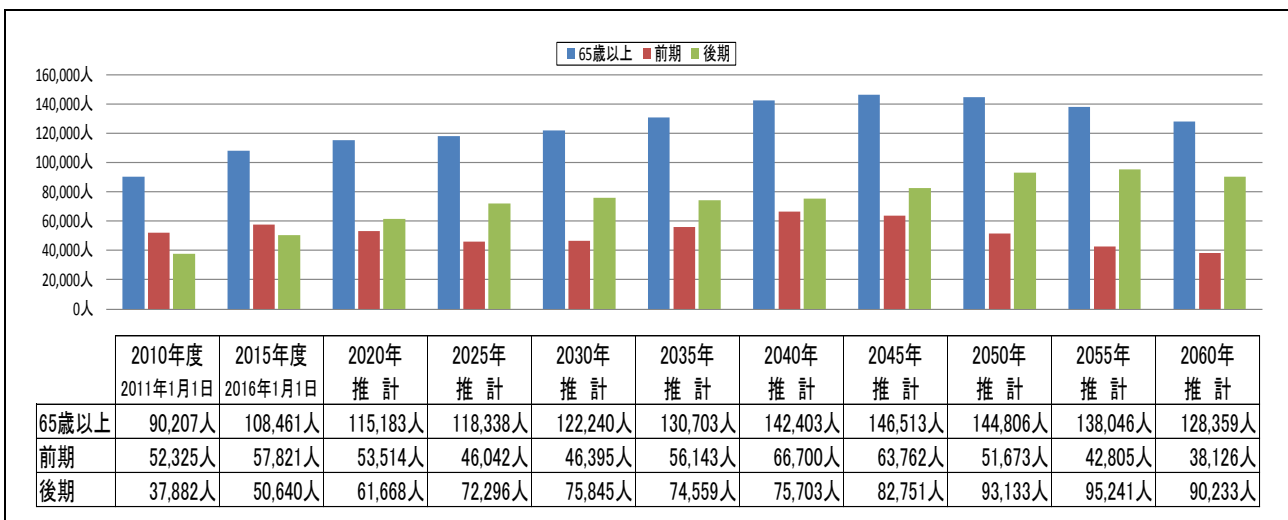
高齢化率は2010年度には21.5%でしたが、2015年度には25.4%へと5年間で3.9ポイント上昇しています。将来推計では、町田市の人口は2020年に約43万人にまで増加し、以降はゆるやかに人口減となる一方、今後も高齢化は進展します。2035年には高齢化率が30%を超え(32.0%)、2050年には38.8%に達すると見込まれています。75歳以上の比率も上昇傾向で、2050年には24.9%と市民の4人にひとりが後期高齢者となります。



資料：2010年度、2015年度は住民基本台帳（各年度1月1日現在）
2020年以降は「町田市将来人口推移」（2015年1月1日現在の住民基本台帳を基準人口とした推計）

2. 前期及び後期高齢者人口の推移

これまでは後期高齢者数より前期高齢者数が多かったものの、その差（前期－後期）は、2010年度の14,443人から2015年度には7,181人へと縮みました。さらに、2020年以降は逆転し、後期高齢者数が前期高齢者数を上回って推移します。



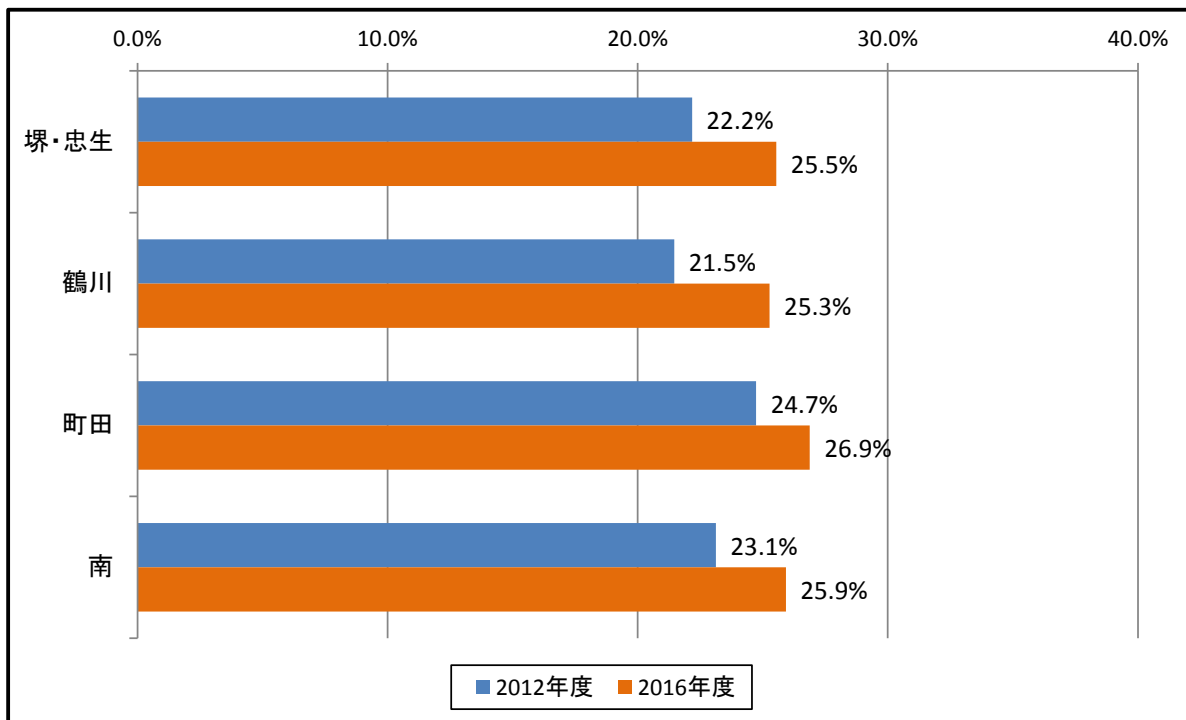
資料：2010年度、2015年度は住民基本台帳（各年度1月1日現在）
2020年以降は「町田市将来人口推移」（2015年1月1日現在の住民基本台帳を基準人口とした推計）

3. 圏域ごとの高齢化の推移（2012年度と2016年度の比較）

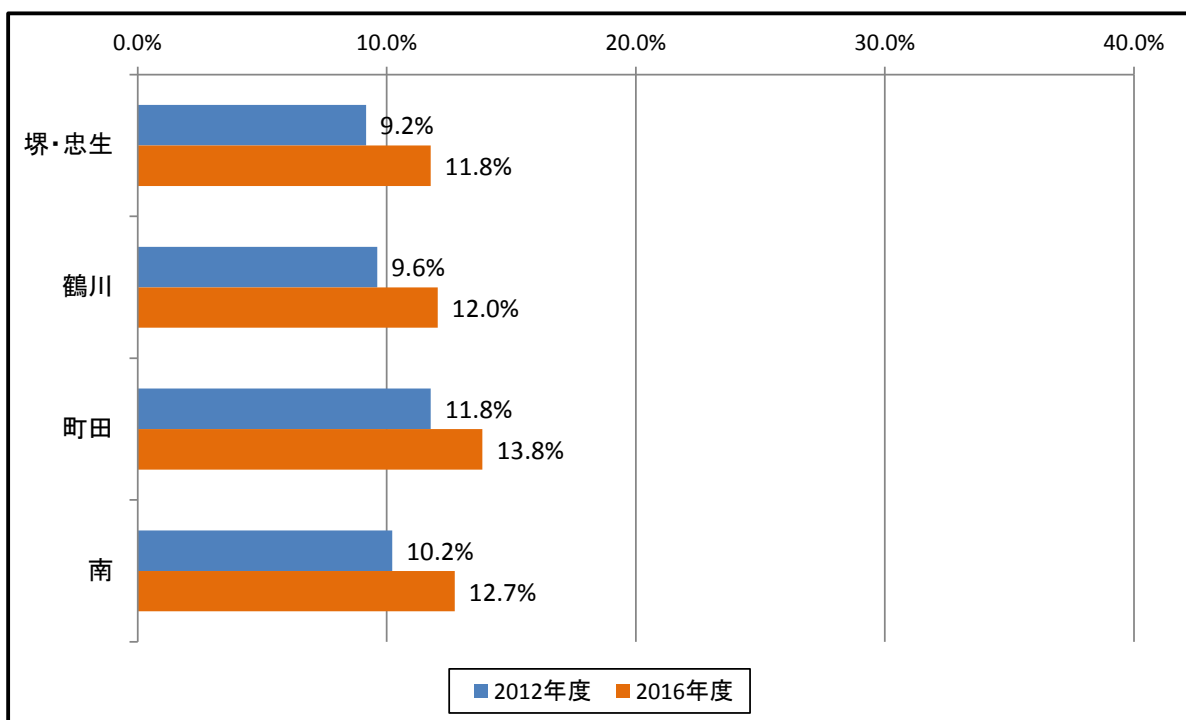
圏域ごとの高齢化率に大きな差はみられませんが、「町田」圏域が26.9%と高くなっています（75歳以上は13.8%）。この5年間で、いずれの圏域においても高齢化が進展しています。

なお、「鶴川」圏域は2012年度の21.5%から2016年度には25.3%へと、3.8ポイント上昇しています。

①圏域ごと（65歳以上）



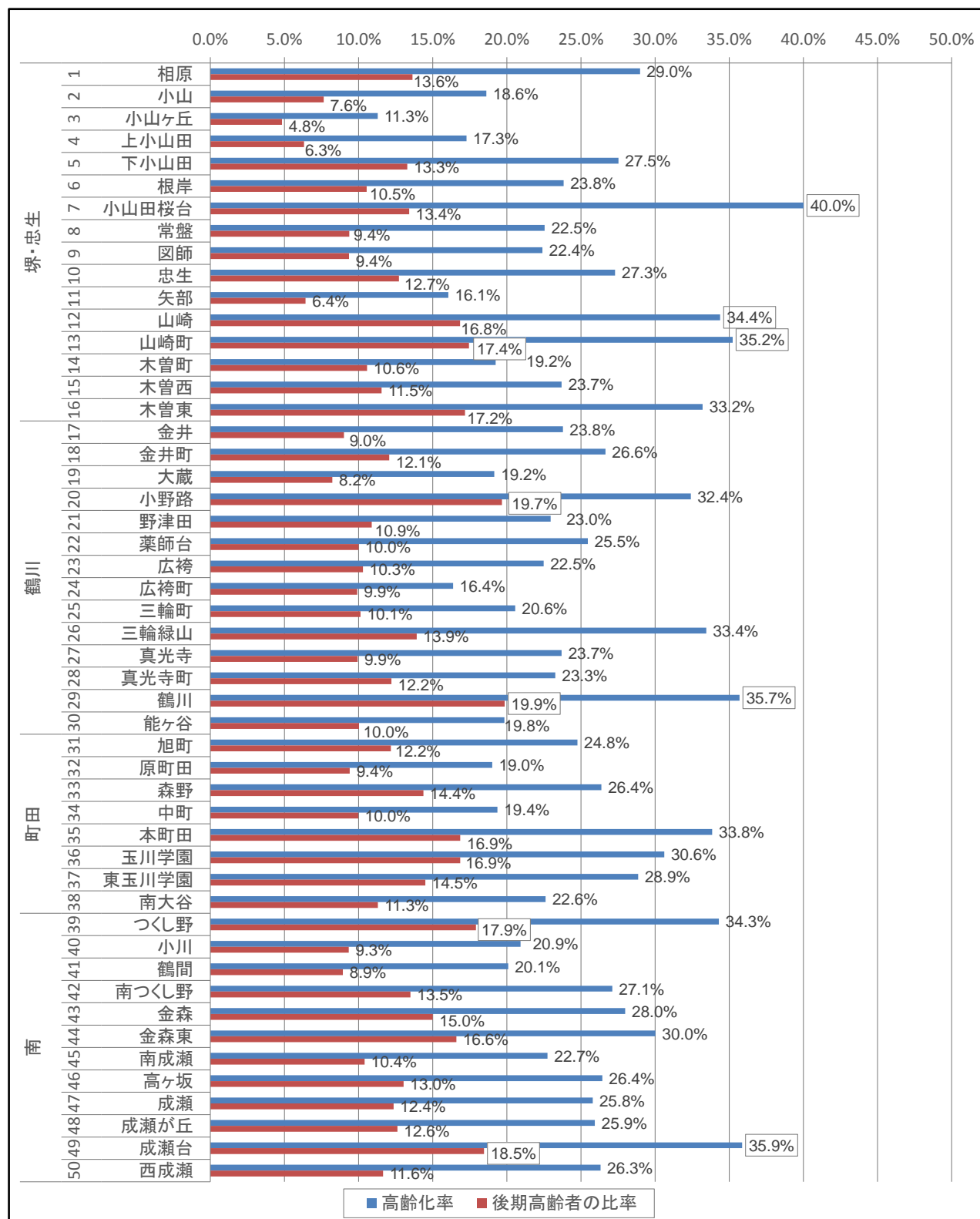
②圏域ごと（75歳以上）



資料：住民基本台帳（2012年度：2013年1月1日現在、2016年度：2017年1月1日現在）

4. 町別の高齢化の状況（2016年度）

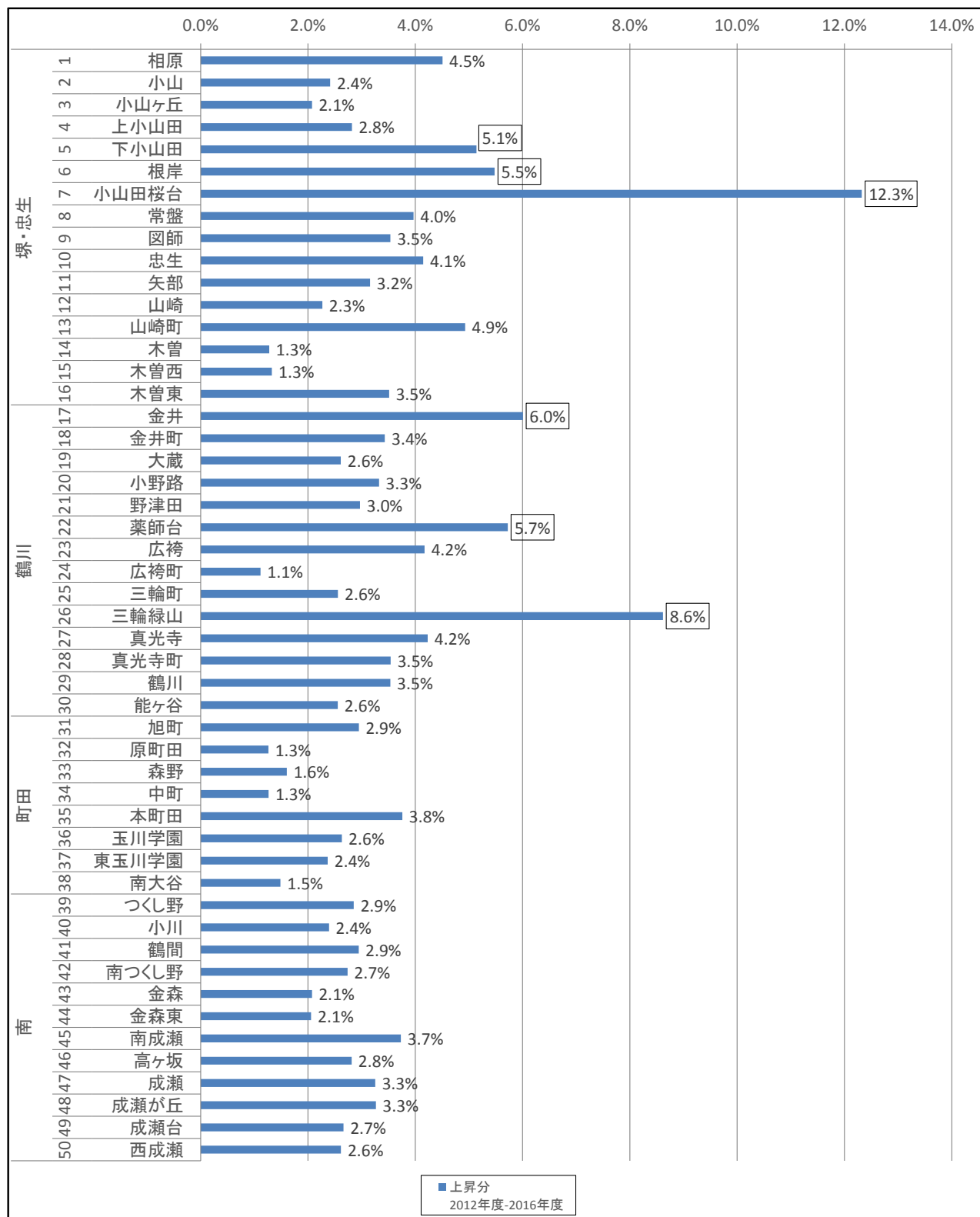
町別の高齢化率をみると、上位5位は、「7.小山田桜台」（40.0%）、「49.成瀬台」（35.9%）、「29.鶴川」（35.7%）、「13.山崎町」（35.2%）、「12.山崎」（34.4%）です。75歳以上について（人口に占める後期高齢者の比率）みると、「29.鶴川」（19.9%）が最も高くなっています。



資料：住民基本台帳（2017年1月1日現在） ※「鶴間」には「南町田」が含まれます。

5. 町別の高齢化の推移（2012年度から2016年度の上昇分）

町別にみても、この5年間ですべての町において高齢化率は上昇しています。5ポイント以上、高齢化率が上昇しているのは、「7.小山田桜台」（12.3ポイント）、「26.三輪緑山」（8.6ポイント）、「17.金井」（6.0ポイント）、「22.薬師台」（5.7ポイント）、「6.根岸」（5.5ポイント）、「5.下小山田」（5.1ポイント）の6町です。

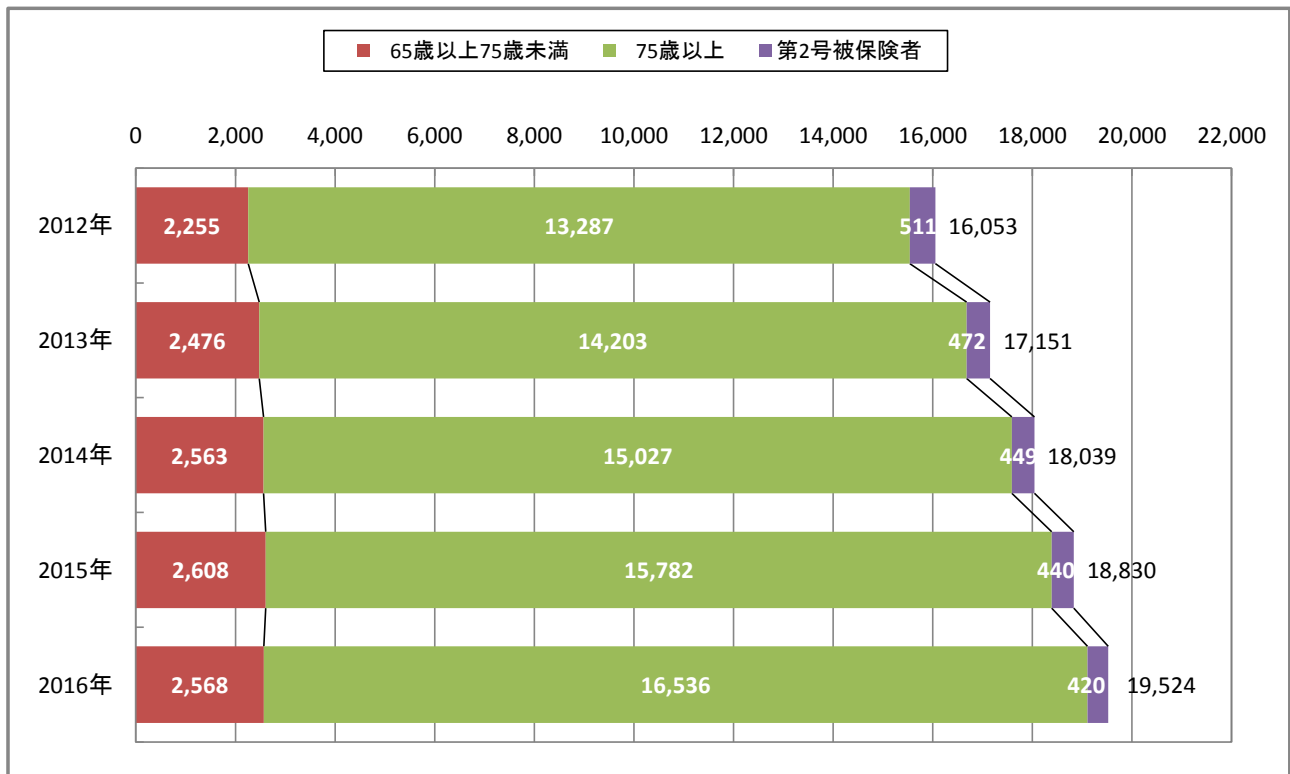


資料：住民基本台帳（2012年度：2013年1月1日現在、2016年度：2017年1月1日現在）

※「成瀬」「西成瀬」は、2012年度「成瀬」と比較しています。また、2016年度の「鶴間」には「南町田」が含まれます。

6. 要支援・要介護認定者数（2012年～2016年）

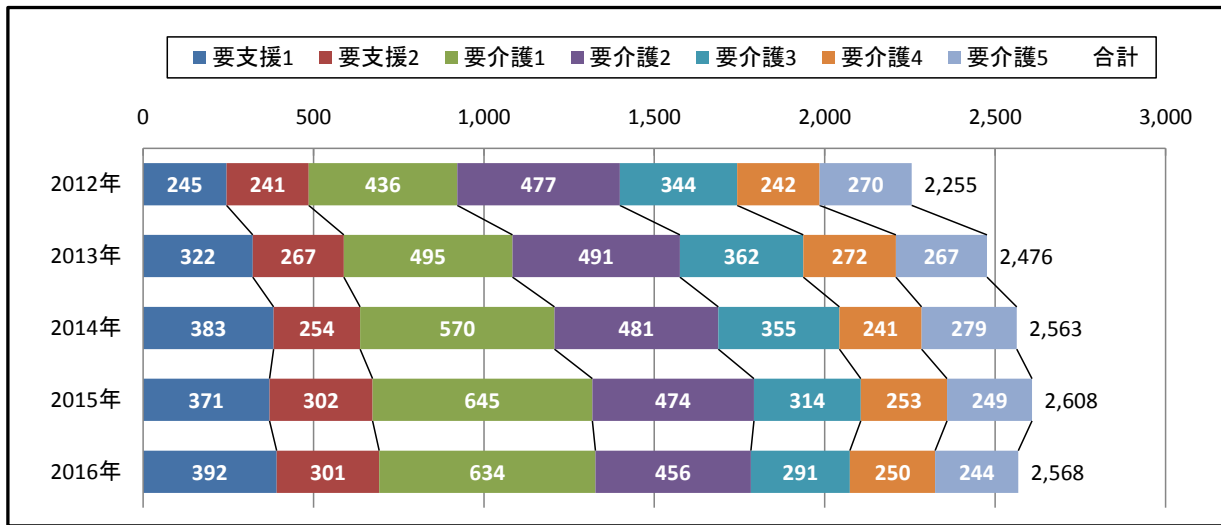
要支援・要介護認定者数をみると、総数はこの5年間で3,400人ほど増加しています。前期高齢者と比べ、後期高齢者は毎年増加傾向にあります。一方で、第2号被保険者は、この5年間で減少しています。



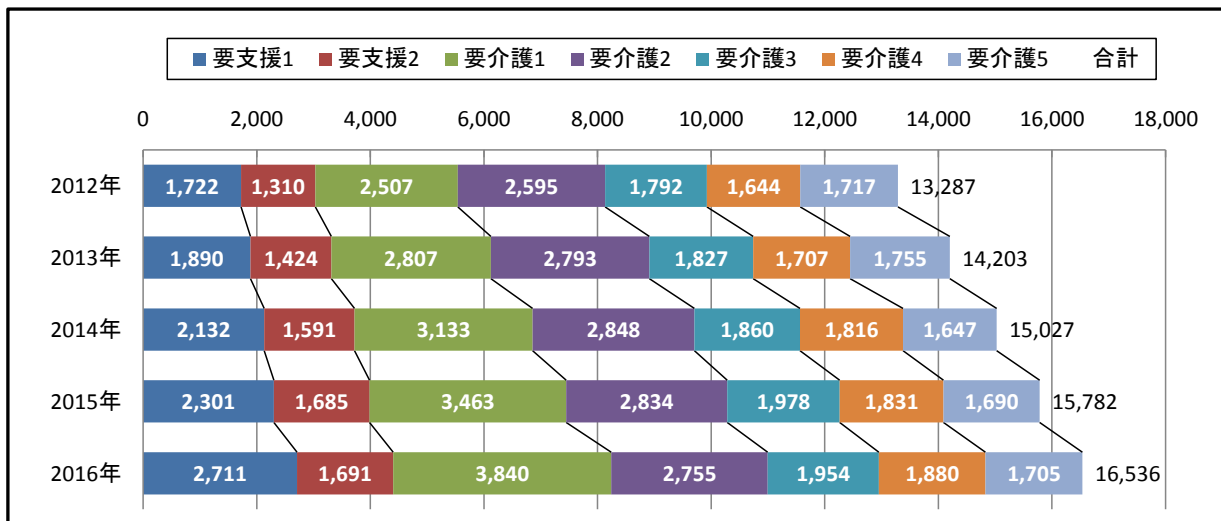
資料：介護保険情報 要介護（要支援）認定者数（人）（各年12月末現在認定結果保有者数）

要介護度別にみると、前期高齢者、後期高齢者ともに「要支援1」「要支援2」「要介護1」と比較的軽度な人が増加しています。第2号被保険者では、要支援・要介護者は全体的に減少傾向にあります。

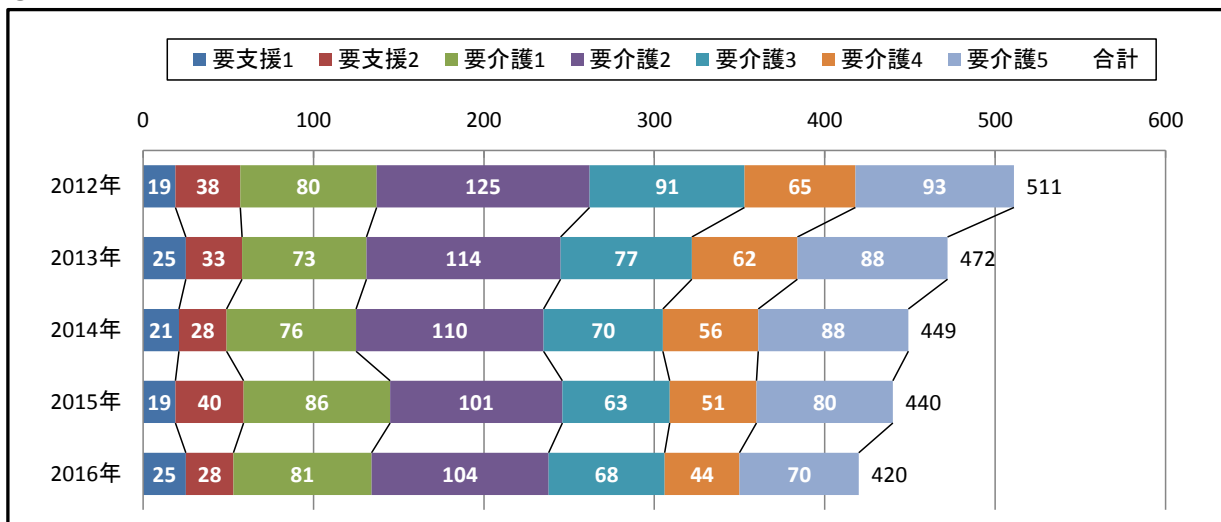
①65 歳以上 75 歳未満



②75 歳以上



③第2号被保険者



資料：介護保険情報 要介護（要支援）認定者数（人）（各年12月末現在認定結果保有者数）